

第4回 新産業創出等研究開発協議会 議事要旨

1 日 時 令和7年7月29日（火） 14:00～16:00

2 場 所 小高生涯学習センター浮舟文化会館 ホール
（福島県南相馬市小高区本町二丁目 89-1）

3 議 事

- (1) 福島国際研究教育機構の活動状況について（報告）
- (2) 福島国際研究教育機構の研究開発の進捗について（報告）
- (3) ワーキンググループの活動状況について（報告）
- (4) 福島国際研究教育機構の施設整備の状況について（報告）
- (5) 意見交換
- (6) その他

4 主な発言内容

議事(1)～(4)について F-REI 及び復興庁より報告を行った。また、議事(4)及び議事(5)について、構成員から以下のとおり発言があった（発言順）。

（議事(4) 福島国際研究教育機構の施設整備の状況について（報告））

【農業・食品産業技術総合研究機構 中谷副理事長】

- 議事(4)の施設整備の地図には、試験ほ場に相当する施設が確認できないが、外部に農地を借りて研究開発を進めるという理解でよいか。また、外部に確保したほ場で実験をする場合でも、基礎的な研究をする内製化された農地が必要であると考えが、その点について見解を伺いたい。

【福島国際研究教育機構 山崎理事長】

- 敷地面積等を鑑みて、施設内に試験ほ場の整備は考えていない。
様々な機関と議論を交わしている段階であり、試験ほ場の整備については、確定したことは申し上げられない状況である。

（議事(5) 意見交換）

【いわき市 内田市長】

- いわき市では若者の首都圏流出が深刻である。若者の定住と還流につなげるため、首都圏の大学で学部レベルの専門性を学んだ若者が地元に戻れるような大学院レベルの教育研究プログラムが必要であると考えている。
- 地元根付いた産業と高等教育を連携した形で、大学院の教育研究プログラムを作りたい。地元には化学・創薬・医療・機械などの民間の研究リソースがあり、先

進的な取組も行っている福島高専もあるため、東北大で行っているような「連携大学院」のような枠組みを使った形でのF-REIとの連携というのを次のステップとして考えている。

【南相馬市 門馬市長】

- ワールドロボットサミットを契機として企業の「共同研究体」及び「共同受注体」を広げていき、「サプライチェーン」に繋げていければと考えている。
- 大切なのは人であり、中高生をはじめ、経済界、産業界においても人材育成・人材の高度化をどう取り組んでいくかが大切であると考えている。市では、「フォニックス学習」や「バカロレア教育」に取り組んでおり、引き続き、県も含めて関係機関のご指導、ご支援等をお願いしたい。
- 本日の報告を受けて、周りの市町村がF-REIに対してどんな協力ができ、何を期待されているかが見えてきたが、研究がF-REI内で完結しているようにも見えた。地元の経済界からも「F-REIと共同で何かできることはないか」という話を聞くため、F-REIから共同で行う取組について提案があれば伺いたい。

【川俣町 齋藤副町長】

- 既存の電子部品、自動車、部品産業等のみならず、社会課題を解決しながら、復興を推進していきたいと考えている。F-REIと地域企業が連携を図り、研究開発や活発な交流が促進されるよう、F-REIに中心的な役割を担っていただきたい。
- 当町は高齢化率が非常に高く、現在68.1%となっており、高齢者の独居や老老世帯が多い状況。こうした中で、安全安心につながる見守りサービス、緊急時の対策等が課題となっているが、F-REIでそれらを新しい産業に結び付け、地域の企業との連携をしていただきたい。

【富岡町 宮川副町長】

- F-REIは、浜通り地域をはじめとした福島県の復興のための牽引役として考えている。今後の可能性に大いに期待している。
- 浜通りの学生を含む県内外の学生に、F-REIに行ってみたい、働いてみたい、と将来思ってもらえるようなF-REI自体の魅力の発信、人材育成に取り組んでいただきたい。
- 当町は原子力災害の全町避難により、一時的に居住人口が0になったという経験があり、人口の大切さや、人口を取り戻す難しさを、身をもって実感している。F-REIには、地域に人口を呼んで、賑わいを生み出す取組をしていただき、そ

の成果を双葉郡、浜通りをはじめとして、広く県内に波及していただきたい。

【川内村 遠藤副村長】

- F-REI には、ロボットやエネルギーのような成長分野に限らず、地域や事業者のニーズを踏まえながら、地域の生活課題の解決に繋がるような研究開発を進めていただきたい。
- 地域の実情に合った研究開発に期待をしたい。川内村は 87%が森林のため、森林分野は今後の成長分野に位置づけられる。こうした中で、F-REI には、作業ロボットやドローンを活用した森林整備事業やワイン事業の効率化・低コスト化が実現できるような実証事業に取り組んでいただきたい。
- F-REI には、実証事業を具現化するにあたり、地域に何が必要なのか、どのような環境を整えば実証事業を誘致できるのかなどの情報を提供していただき、川内村を実証事業のフィールドとして活用していただきたい。

【大熊町 新保副町長】

- 大学や研究機関と F-REI で連携を進め、共同研究の機会創出など、地域全体における研究力向上や人材育成につなげていただきたい。
- 令和 11 年度以降の開業が予定されている県立大野病院の後継となる双葉郡の中核病院について、地域住民に対する医療サービスの提供に加え、F-REI と連携した先端的な医療研究や技術開発なども進めていただきたい。特に、放射線科学、創薬医療という分野において、F-REI での研究成果を十分に活用して、地域の医療サービス自体が向上するとよいと考えている。
- 放射線に関する知識や技術を持った医療人材の育成は、地域医療の強化に不可欠であり、地域住民との対話を重視して、F-REI が提供する研究、医療技術についての情報も積極的に発信していただきたい。

【双葉町 森副町長】

- F-REI の委託研究を通じて、東京大学、東北大学、福島大学が双葉町の施設に同居し、地域のワークショップ等を通じて、まちづくりに深く関与していただいている。引き続き、魅力的なまちづくりに向けた知見の共有と積極的なまちづくりへの参加をお願いするとともに、F-REI としても、まちづくりへの積極的な参加をお願いしたい。
- 新たに設立された「エフとも」は、双葉町をはじめ、浜通り地域のこどもたちにとって、科学への関心を高め、自らの可能性を感じてもらう有意義な取組と認識し

ている。令和10年4月に、こども園と義務教育学校を町内で再開する予定であり、「エフとも」をはじめとする人材育成の取組と学校教育との連携をより一層進めていきたいほか、準備段階からF-REIとの連携のあり方について議論を重ねながら、ともに学びの場を形作るということを考えている。

【浪江町 成井副町長】

- 復興の柱として、水素エネルギーの普及拡大に取り組んでおり、アメリカのランカスター市とも連携している。町出身の県内の高校生が、こうした動きに関心を持ち、来月、ランカスター市に短期留学をし、語学と水素エネルギーについて勉強することになった。「エフとも」の動きが本格化することにより、未来を担う子どもたちが、F-REI 及び F-REI と連携する海外の大学や研究機関等と積極的に関わっていくことが期待される。
- F-REI の活動が具体化するにつれて、事業者から F-REI と関わりたい、F-REI と連携したいとの声が多く寄せられてきている。F-REI 座談会後に懇談会などの事業者の思いや意見を共有する場を今後検討していただきたい。

【葛尾村 松本副村長】

- 村内進出企業について、2か所6区画の産業団地のうち、3区画が既に操業が始まっており、残りの3区画も順次、工場等の施設が建設され、来年の春には、すべての企業が操業開始できる見込みである。将来的には、進出企業間の連携を図れるようサポートしていきたい。
- 委託研究が始まった当初は、受託を希望している事業者の中から、村内で実証事業を行いたいという要望があったが、最近はそのような要望が聞かれない。浜通りで行われている委託研究の実証事業があるのであれば、どの地域でどのような事業が行われているか、紹介いただきたい。葛尾村同様に、中山間地域での実証事業の受け入れ事例があれば、今後の参考にしたい。

【福島イノベーション・コースト構想推進機構 伊藤理事長補佐】

- 福島ロボットテストフィールドについて、今後、F-REI と相談しながら、新たに付加された研究開発機能への対応、10月の「ワールドロボットサミット2025」の運営、試験場としてさらなる開発実証への機能向上に対応していきたい。
- 産業化については、F-REI の研究が外部委託からユニットリーダー中心の直営体制に移行する中、当機構のF-REI 連携チームが研究者を訪問させていただき、地元企業とのマッチングの需要やイノベ地域の実証の場の必要条件等について意見を伺っている。

- 県内の小中学校で実施しているふくしまイノベ未来講座について、昨年度9回、研究者を招いて実施している。今年度もこの取組をしっかりと実施していきたい。
- 議事(2)にて、研究開発ユニットのチーム構成について、高いレベルの研究者だけで構成されているというイメージが先行する中で、エンジニアも必要であると言及された。このことは、こどもたちがF-REIを身近に感じる一助になるのではないかと感じたため、我々もエンジニアの必要性についてPRしていきたい。
- 昨年度に引き続き、イノベ構想参画セミナーにおいてF-REIのPRをするほか、復興知事業において17大学21のプロジェクトに参加する大学生等にF-REIの取組を紹介するなど、担い手の拡大を意識しながらF-REIの認知度向上に向けて連携を進めていきたい。

【文部科学省 研究振興局 佐藤研究振興戦略官】

- 本日出席された大学、研究機関等の関係機関と連携して、F-REIの放射線科学・創薬医療分野及び環境動態分野の研究開発を支援している。
- F-REIにおいては、直営ユニットをできるだけ増やしていくということが重要であると考えている。放射線科学・創薬医療分野では、新たに植物イメージング研究ユニット、放射線基盤技術開発ユニットを設置しているほか、原子力災害に関するデータや知見の集積・発信分野では、地域環境共創ユニットを設置したが、このような取組をより一層進められるよう、予算面も含め引き続き支援していきたいと考えている。
- 放射線科学・創薬医療分野において、F-REIや復興庁と協議を進めていき、できるだけ早期に加速器を設置できるよう引き続き努めていきたい。

【環境省 大臣官房総合環境政策統括官グループ 井上総合政策課長】

- F-REIが福島をはじめ東北の復興を実現する拠点となるよう、放射性物質の環境動態研究を通じ、引き続き環境省として国立環境研究所などの関係機関と連携し、環境回復、まちづくりに貢献していきたい。
- 環境省は、化石燃料の代替として水素社会の実現を目指しており、現在も浪江町で実証事業を行っている。今後もF-REIにおける水素関連の研究成果との連携の可能性を検討していきたい。

【福島大学 三浦学長】

- 本学では、福島県の委託事業により、復興支援の拠点として浪江町と富岡町に相双地域支援サテライトを置いている。特に浪江サテライトでは、浪江町とともにF-

REI と連携したまちづくりに取り組んでいる。令和8年度以降、F-REI の第5分野の研究開発や「エフとも」と連携して、コミュニティ再構築に関する研究会などを合同開催し、被災12市町村の帰還者と移住者による新たなコミュニティ再構築事業に取り組む予定であるため協力願いたい。

- 本学の地域未来デザインセンターは、福島社会課題解決に資するプロジェクトの形成・協業に関する取組や研究、ソーシャルイノベーションの人材育成に関する実験的取組を行っているため、F-REI の産学官ネットワーク・セミナーなどと連携させていただきたい。さらに、相双地域支援サテライトでは、被災地の市町村の幼児から高校生までの教育環境整備事業を行っており、幅広い年齢を対象とした人材育成についてF-REI と連携を進めていきたい。
- F-REI の研究ユニットと福島大学の研究所等との共同プロジェクト研究や、F-REI の研究者による大学院教育、研究指導への参画など、F-REI には、研究と大学院教育における福島大学との連携を強化して、福島、そして世界の課題の解決と産業創生につながる研究を一層進めていただきたい。

【福島県立医科大学 竹之下理事長兼学長】

- 現在 F-REI から受託している第4分野及び第5分野の研究事業を確実に実施するほか、今後 F-REI が想定している研究開発のインハウス化に向け、本学は少数だが精鋭の教員を用意している。
- 研究開発の社会実装に向けた非臨床試験、そして産業化に一番必要な臨床試験について、本学をはじめ、県立大野病院の後継である双葉地域の中核病院を活用していただきたい。特に、第4分野の放射線科学・創薬医療については、大学や中核病院において、全力を挙げて社会実装に向けて取り組んでいく。

【会津大学 岩瀬副理事長】

- F-REI から受託している研究事業として、本学のプログラミング教育をベースに、ロボットのソフトウェア開発に適用する環境構築を進めている。具体的には、サイバー空間上でロボットを動作させ、テストを行える環境の構築に取り組んでいる。また、本研究は教育分野への活用にも重点を置いている。
- 昨年度は、小高産業技術高校、原町高校、相馬高校をはじめとする浜通り地域の高校生464名にロボットやプログラミングに関する教育を実施した。これは本学の学部全体の学生数である約1,000名と比較しても半数に相当する規模であり、本学にとって、浜通り地域を一つの大きなキャンパスと捉えている。

- F-REI トップセミナーについて、今年で3年目となり、山崎理事長による新入生向けの特別講義が恒例化している。新入生にとっての指針となる内容であり、継続を希望する。また、12月に開催した「ふくしま未来創造プログラム」において、ふたば未来学園高校の生徒、本学や福島大学等の学生及び留学生が参加し、福島の復興に関するメッセージを海外に発信するワークショップを実施したが、今後もこうした連携活動を推進していきたい。
- 福島ロボットテストフィールドにおいて、月面を模したクレーターを整備しており、イノベ機構との協力のもと、月面探査機等の物理的な実証試験が可能な環境を構築中である。このことは、航空宇宙産業における実証の場となるため、重点的に取り組んでいる。
- ワールドロボットサミットに関して、本学関係では4チームがエントリーしている。そのうち2チームは南相馬市内の企業との共同チームとして、プラント災害、過酷環境ドローン分野に出場予定。ワールドロボットサミットは単なるコンテストにとどまらず、機能検証の場として価値ある取組であることから、今後も積極的に関わっていきたい。

【東北大学グリーン未来創造機構（オブザーバー）

小野寺特任教授・福島復興支援室副室長】

- 本学のこれまでの活動として、3年前に福島県と締結した包括連携協定を起点として、浜通り地域の各市町とも順次包括連携協定を締結してきた。これらの協定に基づき、浜通り地域に複数の拠点を開設したほか、F-REI と共同で放射線環境生態学連携講座を設置し、博士課程の学生が学び始めている段階である。
- 本学は、昨年11月に国際卓越研究大学に認定された。この認定は、福島での復興への貢献が大きな要素の一つとなっており、最重要施策である「FUKUSHIMA サイエンスパーク構想」の推進を目的として、浪江町に新たな浜通り拠点を設置する運びとなった。
- 新たな浜通り拠点は、浪江町が整備する産学官連携施設内の研究拠点と、本学が整備する宿泊機能を持つ研修施設で構成されており、仙台市の青葉山新キャンパスに形成しているサイエンスパークの産学連携の取組を浜通り地域に横展開しつつ、「防災人材育成プログラム」の実施など、学生の活動拠点としても活用することとしている。
- この拠点を核として、今後、周辺市町村も含めた地域全体における活動を一層活発化し、この地域の創造的復興に一層貢献していきたい。

【産業技術総合研究所 福島再生可能エネルギー研究所 古谷所長】

- F-REI の委託事業「被災地企業等再生可能エネルギー技術シーズ開発・事業化支援事業」を通じて、浜通り地域の 15 市町村の企業を引き続き支援している。本年度は、ドローンを用いた風況調査や風車翼の高度点検技術など、コンソーシアム型 6 件と個別型 7 件、計 13 件を採択。これらの取組を、FREA で培ってきたノウハウや研究設備を活用しながら、F-REI と連携し、被災地企業における雇用創出へとつなげていきたい。
- 事業発信に関する取組として、2024 年 11 月にいわき市で開催された国際放射線防護委員会の年次会合の招致に協力した。また、本年度は 2025 年 9 月に南相馬市で開催予定の、国際度量衡委員会の下に設置されている放射線諮問委員会への協力も予定している。こうした活動を通じて、F-REI の国内外への情報発信に引き続き協力していく方針である。

【量子科学技術研究開発機構 神田理事】

- 現在、F-REI における研究体制が委託研究から直営の研究体制へ移行しつつある中で、当機構の福島医大における分室は、いち早く F-REI の直営体制に移行している。一方、当機構の環境研究グループは、放射性物質の環境動態に関する委託研究に参画しており、今後も F-REI の地域環境共創ユニットと緊密に連携しながら、地域住民のニーズに沿った委託研究を継続的に推進していきたい。
- 植物イメージング研究は、F-REI の直営体制で研究が開始されており、F-REI 主導のもと、実験環境の整備が進められている。今後、この研究から創出される栽培技術の社会実装に向けて、福島県内で栽培技術の検証が必要であるため、地域の生産者との連携体制の構築について、指導と協力をお願いしたい。
- 放射性同位体元素の製造及びそれを利用した創薬は、委託研究の形で参画しているが、より緊密な連携を図りたい。そのためには、お互いの制度整備や環境づくりが必要であると認識しているため、指導と協力をお願いしたい。

【日本原子力研究開発機構 植田理事】

- 昨年の 7 月には、福島県、国立環境研究所、F-REI、原子力研究開発機構の 4 機関で、環境創造センターにおける連携協力に関する基本協定及び実施協定を締結しており、今年度から、環境創造センターで行ってきた環境動態研究を F-REI の地域環境共創ユニットへ移管している。当機構では、環境回復に関する研究として、環境モニタリングを実施しているため、被ばく評価やデータベース関連の分野で、引き続き連携と協力をお願いしたい。

【国立環境研究所 福島地域協働研究拠点 根木拠点長】

- 環境創造センターにおいて、今年度より F-REI が新たに加わり、4 機関による共同研究活動が開始された。具体的には、4 名の研究者が国立環境研究所と F-REI の双方に所属し研究を進めているため、引き続き緊密に連携していきたい。
- 国立環境研究所福島拠点では、放射性物質を含む廃棄物等の処理に関する研究、生物・生態系への影響に関する研究、被災地での環境に配慮した復興まちづくりに関する研究の 3 分野を中心に継続して研究している。今後も、F-REI との緊密な連携を図りつつ、その取組の充実化に貢献していきたいと考えている。

【田村市 白石市長】

- F-REI の山崎理事長をはじめとする関係者が、これまで田村市をたびたび訪問し、市民との対話も行ってきたことに対し、地域として大いに期待を寄せている。
- 当市では、林業と農業に課題があり、これらに対する効果的な解決策を F-REI の取組には強く期待しているため、迅速な対応と連携をお願いしたい。

【経済産業省 福島復興推進グループ 辻本グループ長】

- F-REI の活動状況を伺い、ここまで名実ともに進捗を重ねてこられたことに、改めて敬意を表するとともに感謝申し上げます。
- 各自治体からも F-REI の活動に対する高い期待が示されが、F-REI の活動が実際にどのように地域に裨益していくのか、まさに先日改定した「福島イノベーション・コースト構想を基軸とした産業発展の青写真」の中にも盛り込んだが、どのように地域の稼ぎや日々の暮らしの改善、人材育成につながっていくのかが、本日の大きなテーマであったと考える。
- 経産省としても、復興庁をはじめとする関係省庁と連携しながら、F-REI の活動、ひいては福島の復興に、今後もしっかり対応していく。

【農林水産省 農林水産技術会議事務局 佐藤研究総務官】

- 我々としても福島にとって農林水産業は非常に重要な位置づけにあると考えており、それらの課題解決に繋がる研究が F-REI の直営研究の中で着実に進んでいくよう引き続き支援をしてまいりたい。

【厚生労働省 医政局研究開発政策課治験推進室 荒木室長】

- 創薬医療その他において、関係する機関及び省庁と連携して研究開発の振興を後押ししていきたいと考えているため、協力いただきたい。

【内閣府 健康・医療戦略推進事務局 笠谷企画官】

- 本年2月に健康・医療戦略を閣議決定しており、その中に創薬や放射線利用についても盛り込まれている。内閣府としては直接的な予算措置は困難であるものの、この戦略に基づき、関係省庁と連携しながら、F-REI の取組に対しても協力していきたい。

【内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局 佐藤上席科学技術政策フェロー】

- 内閣府科学技術・イノベーション推進事務局は、F-REI に対して毎年度評価を実施しており、これは数年に一回評価を実施する他の研究開発法人と異なる取扱である。この取扱は、F-REI が創造的復興の中核拠点として我が国の科学技術イノベーションの中で極めて重要な役割を担っていることを踏まえたものである。
- F-REI を評価するだけでなく、関係省庁とともに挑戦的な取組に対して積極的に関与し、今後も国および地域全体を盛り上げていきたい。

【福島県 内堀知事】

- 本日の協議会で感じた第1印象は、今までの協議会から変わってきたということである。前回までの協議会は、F-REI がどのような取組を行っているのか、また、地元とのかかわり方などについて素朴な論点が多く見られた。一方で、今回の協議会は、構成員がF-REI の具体的な取組を理解した上で、個別の案件に係る意見を発言しており、かみ合っていると感じた。これは大きな進歩である。
- F-REI の研究開発は、「世界に冠たるF-REI」、「地域に貢献するF-REI」、「人材育成のF-REI」という3つの考えを大事にしつつ、個別の案件をより深く協議しながら進めていく段階になったと感じた。
- 今すぐにはできることがある一方、中長期の時間を要することもある。長い目で忍耐強く見守りながら、老若男女、そして県内をはじめ国内外すべての人々がワクワクするF-REI を皆さんと創り上げていきたい。